

分子情報と分類学の統合研究により 明らかになったことクモキリソウ属の例

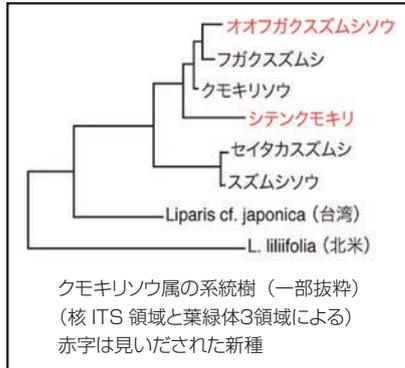
植物研究部
多様性解析・保全グループ
堤 千絵



図鑑も多数出版され、すべて明らかになっているかのように見える日本の植物でも、まだまだわからない、混乱している植物がたくさんあります。その1つクモキリソウ属の研究を紹介します。

クモキリソウ属

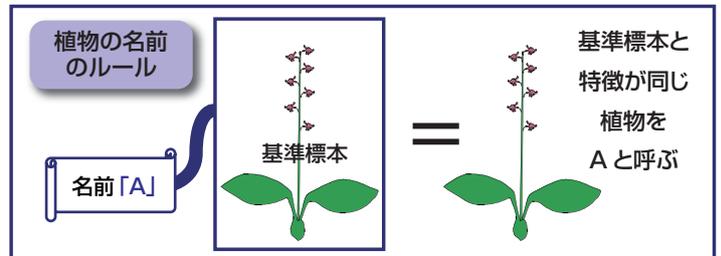
ランの仲間で、日本でも20種弱が知られています。中でも、クモキリソウやスズムシソウの分類が大変混乱しています。分子情報と分類の研究から、明らかになった2新種を紹介します。



別な植物と勘違い!オオフガクスズムシソウ

植物の名前のルール

植物の名前は、生きた株に基づいているわけではありません。右図のように「基準標本 (陸上植物の場合はふつう押し葉標本)」とその特徴を記した「記載文」に基づいています。基準標本や記載と特徴が一致する植物を同じ名前と呼びます。



別な植物と勘違い!

オオフガクスズムシソウという植物は、以前はコウライスズムシソウ (*Liparis koreana*) と呼ばれていました。しかし *Liparis koreana* の基準標本と比べると、両者は異なることが明らかになったのです。



明らかになった「新種」

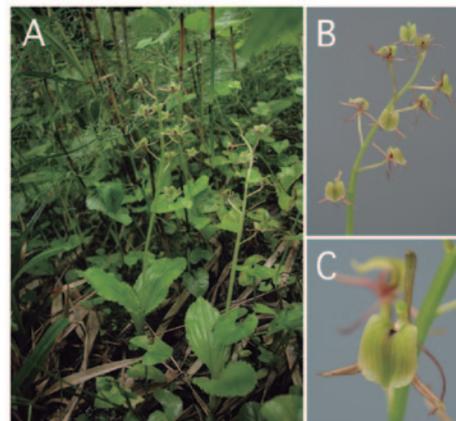
オオフガクスズムシソウは、他のいずれの種とも異なることから、新種オオフガクスズムシソウ (*Liparis koreojaponica*) として発表しました。

分子情報で裏付けられた 新種シテックモキリ

シテックモキリは、一見ただけではクモキリソウとよく似ており、クモキリソウと別種か否かあいまいでした。しかし DNA 情報を比較した結果、両種はスズムシソウとクモキリソウくらい異なることが明らかになりました。



オオフガクスズムシソウ (右) は、コウライスズムシソウ (左) より大きく、花はまばらにつき、薬帽 (やくぼう) の先端が長く伸びない。コウライスズムシソウは、薬帽や花の特徴からスズムシソウの近縁種と考えられる。



シテックモキリ
(*Liparis purpureovittata*)

北海道～本州の明るい林床や湿地に生育する。クモキリソウと比べると花の色や形、萼片 (がくへん) の巻き方などのかたちも異なる。